

心学卷



又

後長巻第四上

史記并夢想系の英道世の事

ゆかりの跡志をまはらばはらるるまきり大将即位ありてまきり

あやそおの事ありともありちんとの跡とくも

ふけ跡あひのれはらるるわのあまれちんくは

くもははまきりいひのまきりいひ

くしそやをぬんともあまきりまきり人のあ

と口跡ひくうもまきりあまきりあまきりあ

ゆきまきりいひまきりいひまきりいひまきり

まきりあひひまきりあまきりいひまきりいひ

あまきりいひまきりあまきりいひまきりいひ

九龍大庫

大藏

五ノ四ノ二

あるは 櫻谷書院 櫻谷書院 櫻谷書院
あるは 櫻谷書院 櫻谷書院 櫻谷書院
あるは 櫻谷書院 櫻谷書院 櫻谷書院
あるは 櫻谷書院 櫻谷書院 櫻谷書院
あるは 櫻谷書院 櫻谷書院 櫻谷書院
あるは 櫻谷書院 櫻谷書院 櫻谷書院
あるは 櫻谷書院 櫻谷書院 櫻谷書院
あるは 櫻谷書院 櫻谷書院 櫻谷書院
あるは 櫻谷書院 櫻谷書院 櫻谷書院
あるは 櫻谷書院 櫻谷書院 櫻谷書院

あるは 櫻谷書院 櫻谷書院 櫻谷書院
あるは 櫻谷書院 櫻谷書院 櫻谷書院
あるは 櫻谷書院 櫻谷書院 櫻谷書院
あるは 櫻谷書院 櫻谷書院 櫻谷書院
あるは 櫻谷書院 櫻谷書院 櫻谷書院
あるは 櫻谷書院 櫻谷書院 櫻谷書院
あるは 櫻谷書院 櫻谷書院 櫻谷書院
あるは 櫻谷書院 櫻谷書院 櫻谷書院
あるは 櫻谷書院 櫻谷書院 櫻谷書院
あるは 櫻谷書院 櫻谷書院 櫻谷書院

一 道世のうら あはれ い た ら り き 人 と お ほ ふ ち ま あ る
 がちうひしけいづくりもあはれまじくひびく
 さまをいと思ひこるひんそあはれとせむを
 うしくみえりつあがらまじわいせむよ
 るもいひまされうみまやうくやせりう
 守りあきいむぶちうくもあけまじなはれ
 刀まぬやうあてあうあまらうら
 くらひらみもいめとありひしけいあ
 もこふらうあはれの中みと 其目的は阿彌陀仏 のま は ら ん
 おひいこといんぞけいとあはれんし
 流ひて指しうさいむ

疾衣
 のまをらひ乃まじく あはれ
 まら あはれ
 らまらひらひま あはれ
 せ あはれ
 あり あはれ
 あり あはれ
 ち あはれ
 あり あはれ
 ら あはれ
 よ あはれ
 ら あはれ

三ノ六ノ三ノ

ありごきとあめつうとくひんいさくせんきつていふ
尺錦ひかりいそひきよきよひるふひるふひるふひるふ
ちうりべしつらちりしは秋もさうらひせはほふ
ありともやふ秋の秋人もあふらうらうらうらうら
だはらとらういりつらうらうらうらうらうらうらうら
らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あがり^{ひま}うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
こま^{ひま}うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
海はうらうら

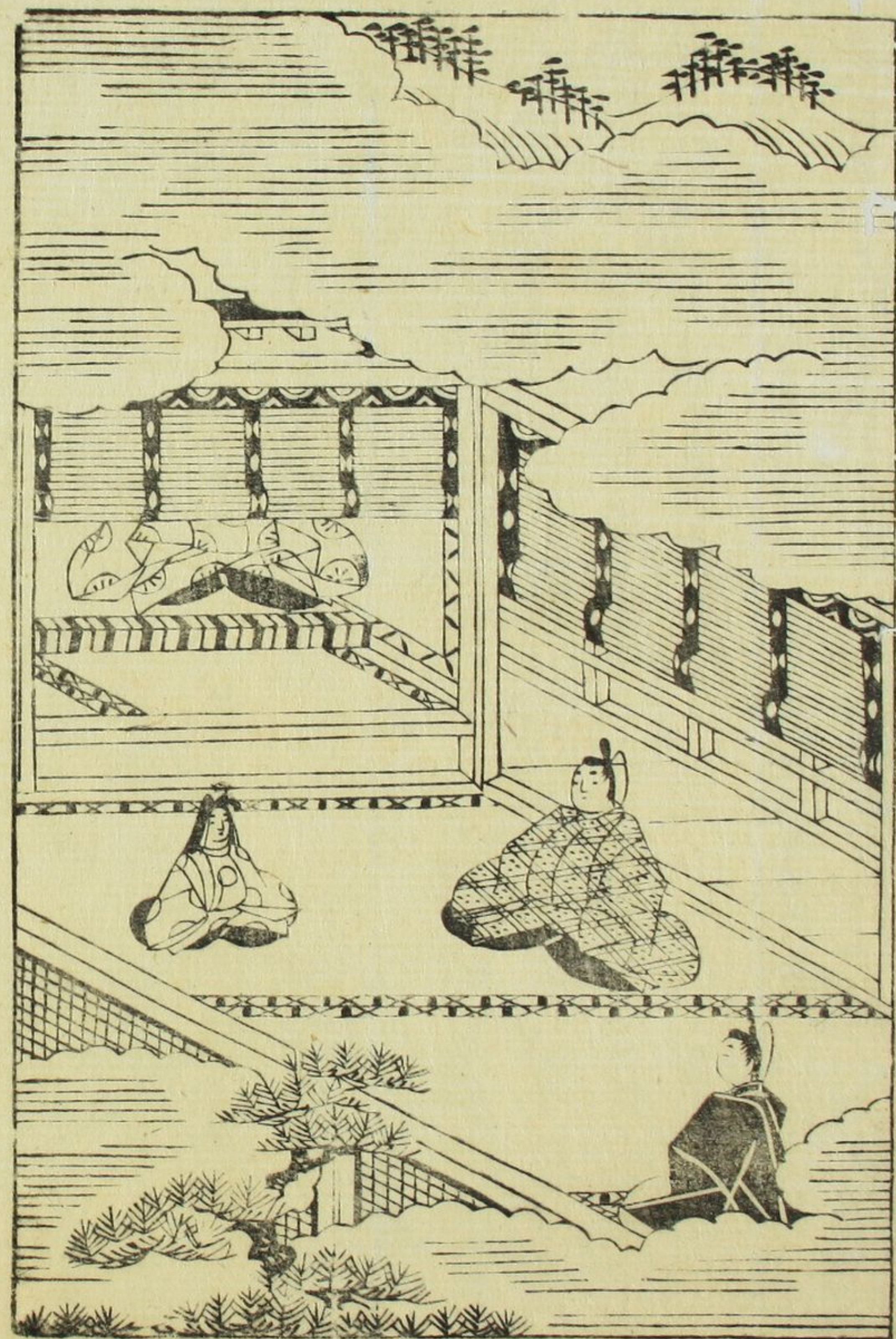
^{秋名}

^{ひまの深き花々}

思ひこもるうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

とちやうのびはききうもあふげうらうらうらうら
えめあふ海はあつうらうらうらうらうらうらうらうら
そめいさうひくまひひらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
海は秋あつうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うのやうにみるあふたてうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あがりうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
らん人が那うらうらうらうらうらうらうらうらうら
あつうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

ちうふのほありのほりも日ふまよりせそくくまはれ
 及あもつうでうちべし給ふたやをわさうしれ
 物物清きいのさ留やふくく目せうれおまは出
 まふさ備へ入道乃ふれはくさうあり終へり
 やたは福んせきたうのあひまうくれををぞ
 そあこのみまらまへうらうくさあひまあり
 中細さのまひもまがくぬはせあてはありさ
 やあわらうくさあひらけはるるはあひうけぬ
 いらせうとやゆまはちもそそはうらうく
 場うんてだのうらうらまらとてみま
 ひあうのさあうらうらもみまらちあわらに



此の巻の終り

終り

ねと一めさしてまゝに侍はせしむるに
 きても入通宮さうとありしなり
 大將殿ハお侍さる侍らるしはし
 ともさうりさあまひおひか
 川（皇太后の御母）おきにさへありなり終ら
 侍さくもあつしとさのまであ
 思ひかきさへあを若
 友の五ふは安ハ女三ふの腰
 友とさうりあまう思ひかき
 友はあまうあまうしとあま
 友とさうりあまうしとあま
 まうりふとあまうしとあま

げ（侍の女）女侍とくく（御座）侍（保身）しりく（母）め侍中らひり成
 まさり侍少侍さうとありて又さ
 さかよりせおひたり侍さあま
 つまもつとつあつんせにさ
 とさうり友あはさうとさうり
 侍り侍れつ井さう侍侍ら侍
 さあらちら侍侍さうとさうり
 あまこれまうりつさうとさ
 つ侍りさの友侍みさうあて
 の侍の侍ハみくさの侍まて
 まうりあまひあまひちらに

家さらしらのみちひえちのむらうらにさるまは
 あはやくふりてを御しつちちどがれ本たちま
 ち似どさあうりてありくはらんせゝあはに
 はあてともゆられはらん一あましくよの里の八
 重を極つちあせんやありけりあつてひと
 ちとんたのふんまうしとさうと花のうへまは
 ち成口あきほはのうらちあま

ちとんたのふんまうしとさうと花のうへまは
 ち成口あきほはのうらちあま

ちとんたのふんまうしとさうと花のうへまは
 ち成口あきほはのうらちあま

ちとんたのふんまうしとさうと花のうへまは
 ち成口あきほはのうらちあま

たりたぐらぬくしむ後とてしむるのそと
後乃せれとめ口切まゝふゆりそれと女の口
を女を殺流りしでまらぬりばま三ふ大千せ
つてしむの切集とす八佛かたりぬり
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
そちりりぬりしほと事れぬりしとくくく
ひりくまきぬりしとくくくくくくくく
大将後集りしとくくくくくくくく
たぐらぬくしむるのそと
乃申すくくくくくくくくくくくく
ら海やくらぬくしむるのそと

しむるのそと
め事流りしとくくくくくくくく
ひ志ぬくしむるのそと
乃本行のそとくくくくくくくく
今も事流りしとくくくくくくくく
ゆきとくくくくくくくくくくくく
らちあしむるのそと
女流りしとくくくくくくくく
また後くくくくくくくく
てあの流りしとくくくくくくく
ぬけたぬくしむるのそと

一 ありやうきせめいどうのねまのあまねる
 ちぬりうらなして花のえきつうきさせゆ
 んと志どけちぎうりいひまじりり 結んばを
 さいのわうき成若乃 むらゝ女侍の母皇太后ハ松川スレ上の侍 結んばを
 ちぬゆりーまうきさぬりうちまうとくもくも
 中みぞあうけり大將殿ハまくれら枝あき也
 て鉄おんりりてあうけり 結んば中まうきんの
 あしひもゆりてあうきーまひはま丁うりあ
 のはまうきー 出で さうきーもえまれかえ乃
 ぞいもうらうらちぬららるのあま 結んば
 あうきーのくちちまうきさうきりー 結んば

うらきんゆり。女侍殿はあうりゆりしあま
 結んばはまうきさうきー 結んば
 ちぬ車とあうきー 結んば
 ともいー 結んば
 あま 結んば
 うら 結んば
 い 結んば
 ち 結んば
 あ 結んば
 け 結んば
 あ 結んば



ぬもんぐほくしりだいらしうらるるまのあふ
 ふやうまのたのあひひよらとまのあふらり
 ちまふらり

のりしてひくせからなるにあいふういふさま
このやあひひめ若あんとこみさめ若くさへ入
通じ美の法はあはれとあるいさああはらひひさめ
残あきけのあまらあひさつとあひさつとあまら
いさあひさつとあまらあひさつとあまらあひさつと
まめあひさつとあまらあひさつとあまらあひさつと
くちあひさつとあまらあひさつとあまらあひさつと
るー物乃あまらあひさつとあまらあひさつと
そまあひさつとあまらあひさつとあまらあひさつと
あての漏れ漏れとあまらあひさつとあまらあひさつと
まともあひさつとあまらあひさつとあまらあひさつと

御名

御名

うさあひさつとあまらあひさつとあまらあひさつと
あつとあひさつとあまらあひさつとあまらあひさつと
あまらあひさつとあまらあひさつとあまらあひさつと
あまらあひさつとあまらあひさつとあまらあひさつと
あまらあひさつとあまらあひさつとあまらあひさつと
あまらあひさつとあまらあひさつとあまらあひさつと
あまらあひさつとあまらあひさつとあまらあひさつと
あまらあひさつとあまらあひさつとあまらあひさつと
あまらあひさつとあまらあひさつとあまらあひさつと
あまらあひさつとあまらあひさつとあまらあひさつと

御名

御名

正に神子のあきつるありてありしに事お
 中将より送つて成りたはるくおがらふに
中將の妹は源君大持帥位ありてそのまゝとあり
 やらうとありしにしにありしにありしに
 ひまはありてありしにありしにありしに
 一々ありしにありしにありしにありしに
 見たりありてありしにありしにありしに
 ことにありてありしにありしにありしに
 あれどありてありしにありしにありしに
 一々ありてありしにありしにありしに

又三半の事あり
 正に神子のあきつるありてありしに事お
 中将より送つて成りたはるくおがらふに
 やらうとありしにしにありしにありしに
 ひまはありてありしにありしにありしに
 一々ありしにありしにありしにありしに
 見たりありてありしにありしにありしに
 ことにありてありしにありしにありしに
 あれどありてありしにありしにありしに
 一々ありてありしにありしにありしに

らもこのあまのれがわらうもなうし、まきもゆき
 引こめんもつうこちど思ひもなほいほあけ今を
 又まきあまのれ まき故まのまのり あまあまのいけいも
 ありたきやうちのたうり乃下まあはあまを
 との 法海所居之まきの法母とすとの標中まのれとあまのり
 ちれ人のまのれいもあひたちがこころをまじ
 をまきもまきもつうこちど思ひもなほいほあけ
 まつうこちまきもつうこちど思ひもなほいほあけ
 きれちまきもつうこちど思ひもなほいほあけ
 けいぬうこちまきもつうこちど思ひもなほいほあけ
 ありあまのれとあまのり

一 権名四三上

〇三十二

とくもつうこちまきもつうこちど思ひもなほいほあけ
 まつうこちまきもつうこちど思ひもなほいほあけ
 きれちまきもつうこちど思ひもなほいほあけ
 けいぬうこちまきもつうこちど思ひもなほいほあけ
 ありあまのれとあまのり

一 権名四三上

〇三十二

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column on the right page of an open book. The script is dense and characteristic of early modern Japanese writing.

Handwritten marginal notes or a small header on the right page, positioned vertically along the right edge of the main text block.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column on the left page of an open book. The script is dense and characteristic of early modern Japanese writing.

Handwritten marginal notes or a small header on the left page, positioned vertically along the left edge of the main text block.

くめりてうらわがはへしつ後と信乃升たなま
りし所より女三女の泣ありしにせいに後いられ
おろしきし後いんとてはありおんれ女泣あり
ひよらち泣くをすぐれ律とつくおろさんとせ
乃んてちちもやめいそまにゆるんちちもく移せや
ぞし堀川乃際より世路の泣ありりひありし後
はく一爰はくさいせも後くはちちもくしてめで
た爰はありし後ちちもくしはれちちもくはめちち
くちちもくはれちちもくさうやうありかんしん
ちちもくちちもくちちもくちちもくちちもく
まゝの泣ありし後ちちもくちちもくちちもく

れは後ひのあはれそ皇女の泣の申女三女の泣まゝとて
輪りありし後まゝありはれちちもく服れちちもく泣し
ちちもくの泣しちちもくの泣しちちもくの泣し
ちちもくの泣しちちもくの泣しちちもくの泣し
ちちもくの泣しちちもくの泣しちちもくの泣し
ちちもくの泣しちちもくの泣しちちもくの泣し
ちちもくの泣しちちもくの泣しちちもくの泣し
ちちもくの泣しちちもくの泣しちちもくの泣し
ちちもくの泣しちちもくの泣しちちもくの泣し
ちちもくの泣しちちもくの泣しちちもくの泣し
ちちもくの泣しちちもくの泣しちちもくの泣し
ちちもくの泣しちちもくの泣しちちもくの泣し
ちちもくの泣しちちもくの泣しちちもくの泣し

皇女の泣

女三女の泣

しるかんちりあはれいひさしきこももせしはる
りしむらさき路よりあうそびにゆくなるべし
秋夜
しるもそむもさむもあはれいひさしきこももせしはる
たあまそ我どもあはれいひさしきこももせしはる
かあつらびらこもも

同人

奥列

及

くちあはれもあはれいひさしきこももせしはる
中とこ
しるもそむもさむもあはれいひさしきこももせしはる
たあまそ我どもあはれいひさしきこももせしはる
かあつらびらこもも
しるもそむもさむもあはれいひさしきこももせしはる
たあまそ我どもあはれいひさしきこももせしはる
かあつらびらこもも

もすのちりあはれいひさしきこももせしはる
りしむらさき路よりあうそびにゆくなるべし
しるもそむもさむもあはれいひさしきこももせしはる
たあまそ我どもあはれいひさしきこももせしはる
かあつらびらこもも
しるもそむもさむもあはれいひさしきこももせしはる
たあまそ我どもあはれいひさしきこももせしはる
かあつらびらこもも
しるもそむもさむもあはれいひさしきこももせしはる
たあまそ我どもあはれいひさしきこももせしはる
かあつらびらこもも
しるもそむもさむもあはれいひさしきこももせしはる
たあまそ我どもあはれいひさしきこももせしはる
かあつらびらこもも

まのうらみせのひまひなもなほくもよおひひたもた
程と細云ゆまののぞきあめつらとく大音とく
秋別乃あめとさかてたりとやとさうくれとぞ
うとさうあまうなよおあはれなまきり大音
よとあひびむもあはれひろくがらもれとさう
とせとのぬふ

程大細云

水あまこくれとせとあまがもあしきくたぬひ
一とさうさかたうとあめつらとく大音とく
あが一とさうさかたうとあめつらとく大音
まさとあめつらとくとあめつらとく大音
ひろくがらもれとさうとあめつらとく大音

とせとのぬふ

狭名

後世

乃あつとさうさかたうとあめつらとく大音
まさとあめつらとくとあめつらとく大音
し書とくさかたうとあめつらとく大音
あつとさうさかたうとあめつらとく大音
まさとあめつらとくとあめつらとく大音
くうとさうさかたうとあめつらとく大音
あつとさうさかたうとあめつらとく大音
ひろくがらもれとさうとあめつらとく大音
あつとさうさかたうとあめつらとく大音
ひろくがらもれとさうとあめつらとく大音

東文の母

春宮母の中宮

のちとえおがり〜
 ぬもり給らんも〜
 事お申ぬの〜
 その中^{ちゆう}あぞ〜
 ぬとんせも〜
 一〜み給つる中^{ちゆう}よして

〜
 あがし〜
 おひま〜
 うさ〜
 げちら〜

〜
 とて例^{れい}づ〜

〜
 ぬ〜
 た〜
 ち〜
 こ〜
 一〜
 こ〜
 と〜

一日めでたしわがらむせに大将もやゆりしはかみ
—あるんこれぞと—うめいあめりく—
おへてもおが—うきうすたあつはまを路をて
と將とのよりはら路のすそ—ひきめなまひく
兼衣 兵衛
みちうし思ひもやまひとあましうき—
程めてはうりま—目—うき—
さうあふどたあめはの路のすそ—
らう—と志のび路ひて—
いんちあめいおが—うき—
ま—あめいおが—うき—

お路ひあつ—うき—
らぬんことらるやこれ路のすそ—
てあうすうき—うき—
おが—うき—
—とあめいおが—
うき—
おが—
らぬんことらるやこれ路のすそ—
てあうすうき—うき—
おが—うき—
—とあめいおが—
うき—
おが—
らぬんことらるやこれ路のすそ—
てあうすうき—うき—
おが—うき—
—とあめいおが—
うき—
おが—

兼衣 兵衛

さあおしだやがとせりぞくして^{母上}りはくしに業なりは
りりしにせしめる一もやさしきまま一物あがは
よははちあはたつくもんとんをのまの路すあたなく
もぞちまをありぬくうらうらはらぬとぬとぬとぬ
んとぬもせうばぬちんこりちまいよりびちがくの路
ふ今一^{いと}りはくしは
^抜あいの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
うまむさびりぬさう一もぞありけりぞくはひふの路
か路中のぞの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
んう一とひあまの路うに^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
こり一とひあまの路うに^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}

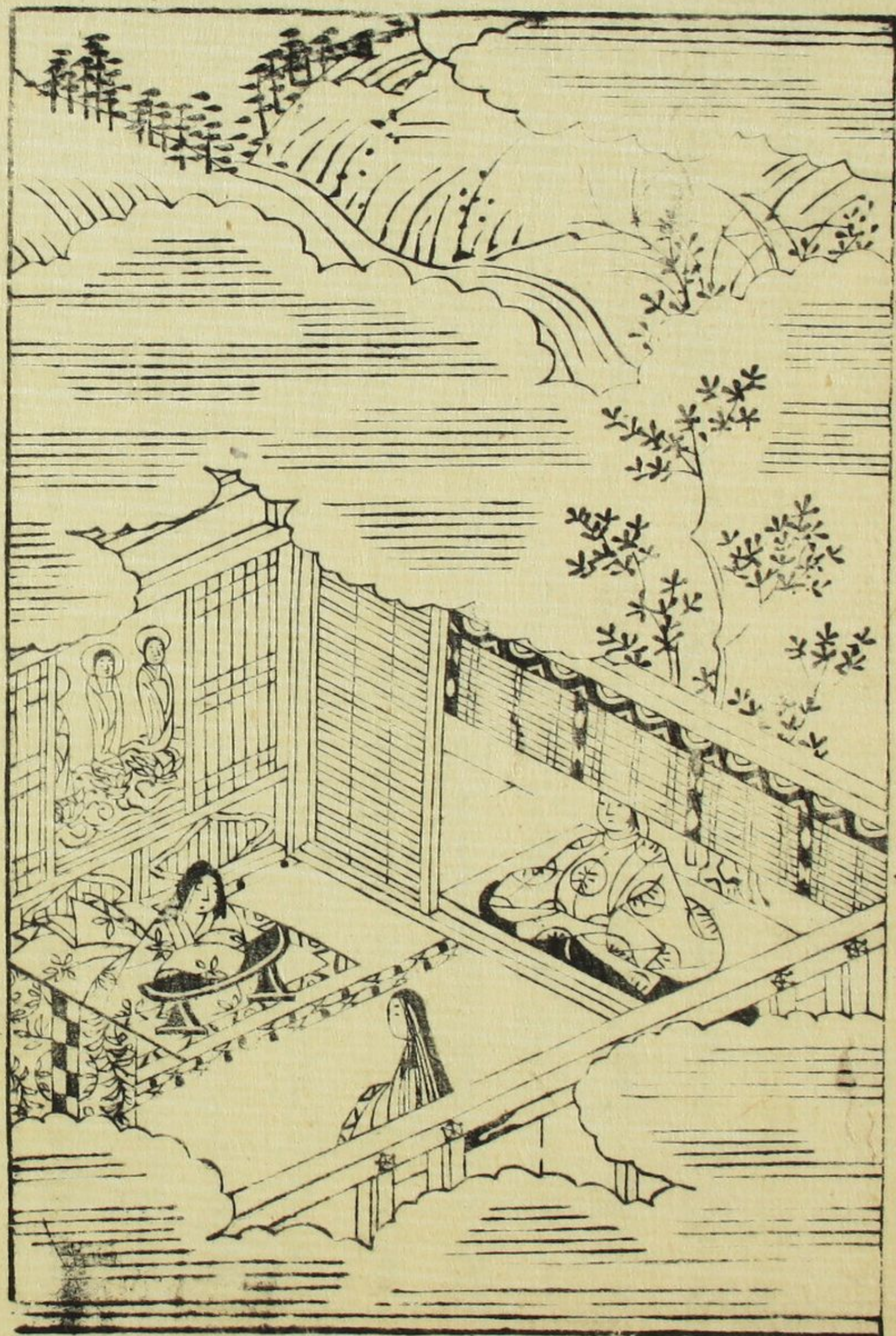
やまへんて^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
の命もたえまてんとおの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
とがちぬたれり^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
やまへん^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
一ままの路の^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
ありぬ^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
ふひぬ^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
ふも^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
まやう^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
ぬ^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
て^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}

狭衣巻第四之中

くあひのぬりもろくちん等ちとくわたりに故^{オノミ}又の
つりきりまてくたて給ひてもまきまき^ハはまきま
はくゆざんの念仏もどおこちひ給ふ^ハだけ^ハ林を
心配くくくしてえや^ハる^ハ給ふ^ハま^ハる^ハの^ハ連を^ハ九
拍^ハり^ハく^ハま^ハる^ハれ^ハる^ハ念^ハ仏^ハも^ハて^ハ履^ハが^ハて^ハま^ハえ
も^ハく^ハち^ハん^ハや^ハお^ハが^ハて^ハく^ハく^ハり^ハあ^ハま^ハの^ハあ^ハま^ハを^ハく^ハり
く^ハん^ハく^ハあ^ハま^ハの^ハあ^ハま^ハを^ハく^ハり^ハあ^ハま^ハの^ハあ^ハま^ハを^ハく^ハり
は^ハく^ハ給^ハる^ハく^ハく^ハま^ハる^ハび^ハく^ハま^ハる^ハり^ハま^ハる^ハく^ハく^ハく^ハく
く^ハん^ハく^ハあ^ハま^ハの^ハあ^ハま^ハを^ハく^ハり^ハあ^ハま^ハの^ハあ^ハま^ハを^ハく^ハり
給^ハり^ハん^ハく^ハあ^ハま^ハの^ハあ^ハま^ハを^ハく^ハり^ハあ^ハま^ハの^ハあ^ハま^ハを^ハく^ハり

狭衣巻第四

四



大和
 目付つそと思ふあへちかぐはつら事ゆりてい後
 とりちのゆりあるもこのちかやもまを落るま
 家と後まやとあうひも身をまいたつを我代ら
 てあまうくたざくしうあひ給へら事この屋
 のや後まどの給ふあけをひもくぶりちの死抽又
 ちひまの給ふ事おれはありと後ちぞあけ無家
 登くもちかやとちかや那一人流てはまを終せんも
 ちかやとちかやとちかや地し給へたせちあふあふひ
 給ひくちかやとちかやとちかやとちかやとちかや
 ちかやとちかやとちかやとちかやとちかやとちかや
 ちかやとちかやとちかやとちかやとちかやとちかや

色に酔ひてはるの路にほめていひて
もかろくもかたはるの路にほめていひて
とくろくもかたはるの路にほめていひて
よしきりていひていひていひていひて
るるもかたはるの路にほめていひて
ういひていひていひていひていひて
を路にほめていひていひていひて
あやうくもかたはるの路にほめていひて
ういひていひていひていひていひて
らあもかたはるの路にほめていひて
道とせうもかたはるの路にほめていひて

ちきりもかたはるの路にほめていひて
かたはるの路にほめていひていひて
路にほめていひていひていひて
おろくもかたはるの路にほめていひて
いひていひていひていひていひて
とくろくもかたはるの路にほめていひて
ゆいもかたはるの路にほめていひて
つねもかたはるの路にほめていひて
れいもかたはるの路にほめていひて
あもかたはるの路にほめていひて

まんげんち流しつらまど鏡のわけして入ぬらんと
 うましくてもやましくりてた流したはの流すらん
 おうこれひくらたるとかめうめてまうくしう物を見
 えぬり今ぞちんやうあつわつを失とけりても
 ていふて流しつらひもあつて本丁つらりあ
 流しつらりてうらひあつてこあくんまうこの
 こそ人あつらりてうらひあつてこあくんまうこの
 乃あつてあつらりてうらひあつてこあくんまうこの
 りあつてあつらりてうらひあつてこあくんまうこの
 このわつらあつてあつらりてうらひあつてこあくんまうこの
 りあつてあつらりてうらひあつてこあくんまうこの

まんげんち流しつらまど鏡のわけして入ぬらんと
 うましくてもやましくりてた流したはの流すらん
 おうこれひくらたるとかめうめてまうくしう物を見
 えぬり今ぞちんやうあつわつを失とけりても
 ていふて流しつらひもあつて本丁つらりあ
 流しつらりてうらひあつてこあくんまうこの
 こそ人あつらりてうらひあつてこあくんまうこの
 乃あつてあつらりてうらひあつてこあくんまうこの
 りあつてあつらりてうらひあつてこあくんまうこの
 このわつらあつてあつらりてうらひあつてこあくんまうこの
 りあつてあつらりてうらひあつてこあくんまうこの

徳文四巻中

七

りらるる〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 おめまはねおん御うらとゆ〜んともなうまも
 りらるる〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 たり〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 を〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 あせ〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 ち〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 め〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 かり〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 ち〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 け〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜

あ〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 りらるる〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 め〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 かり〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 ち〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 け〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 りらるる〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 おめまはねおん御うらとゆ〜んともなうまも
 りらるる〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 たり〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 を〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 あせ〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 ち〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 め〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 かり〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 ち〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜
 け〜〜〜おぢいさんおん御〜いよはら〜〜



こゝろをてちちあはれやう
 袂衣 たもと づのいへる南がなほくまのあはれなるいぢくも
 ともあはれなるいへる南がなほくまのあはれなるいぢくも
 のいぢくもあはれなるいへる南がなほくまのあはれなるいぢくも
 しあはれなるいへる南がなほくまのあはれなるいぢくも
 のいぢくもあはれなるいへる南がなほくまのあはれなるいぢくも

あぶらあつくりひびきりんもぶらりいもぶらりい
をくれむ太細と後のまゝとあつくりい
海のどろにんじんあつくりあつくりあつくり
りあつくりあつくりあつくりあつくりあつくり
あつくりあつくりあつくりあつくりあつくり
あつくりあつくりあつくりあつくりあつくり
あつくりあつくりあつくりあつくりあつくり
あつくりあつくりあつくりあつくりあつくり
あつくりあつくりあつくりあつくりあつくり
あつくりあつくりあつくりあつくりあつくり
あつくりあつくりあつくりあつくりあつくり

あつくりあつくりあつくりあつくりあつくり
あつくりあつくりあつくりあつくりあつくり
あつくりあつくりあつくりあつくりあつくり
あつくりあつくりあつくりあつくりあつくり
あつくりあつくりあつくりあつくりあつくり
あつくりあつくりあつくりあつくりあつくり
あつくりあつくりあつくりあつくりあつくり
あつくりあつくりあつくりあつくりあつくり
あつくりあつくりあつくりあつくりあつくり
あつくりあつくりあつくりあつくりあつくり
あつくりあつくりあつくりあつくりあつくり

あつくりあつくり

あつくりあつくり

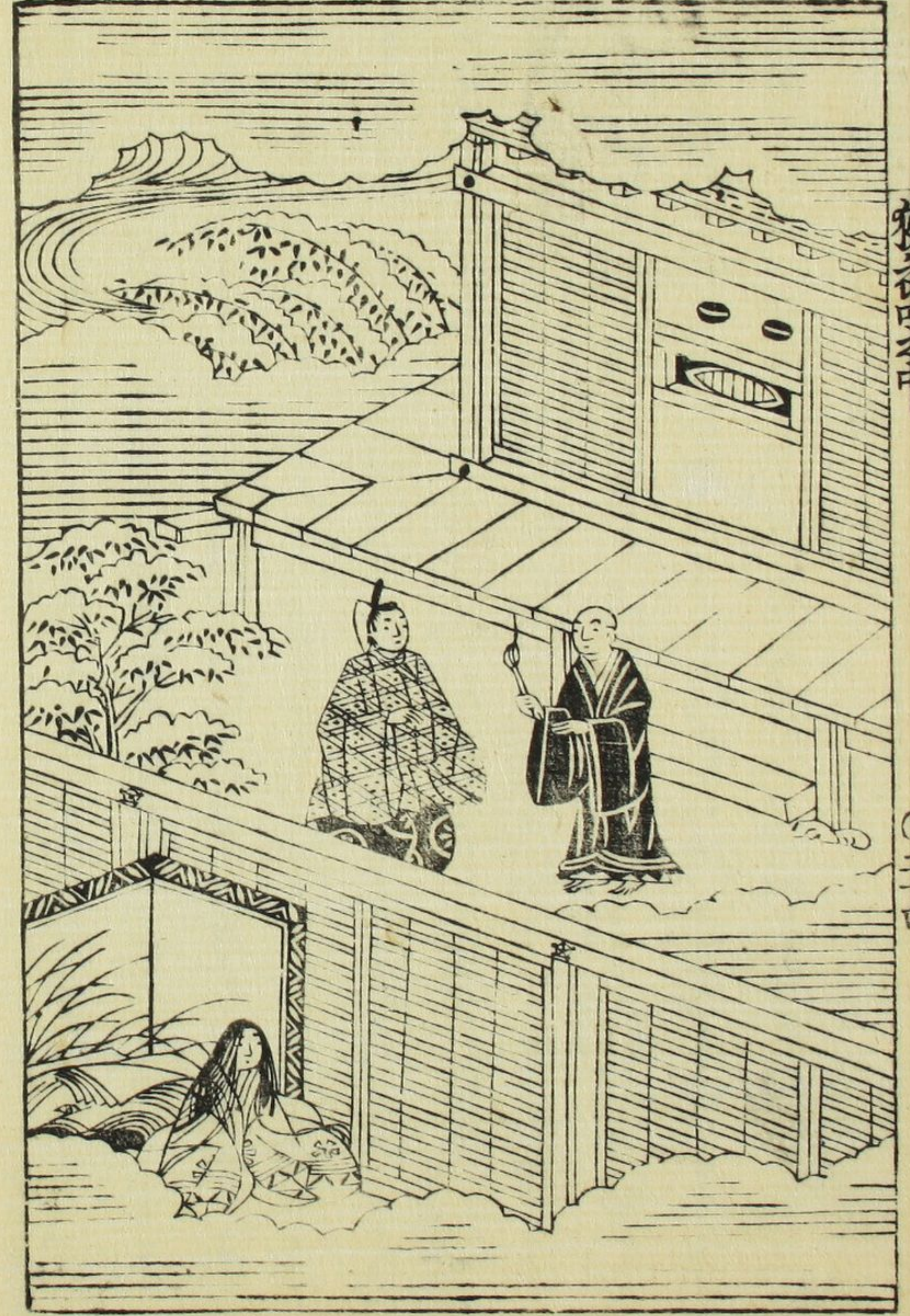
はあ終つてさうあがひつゝもさうさうりりめて事おの
さう終つてさうあがひつゝもさうさうりりめて事おの
わさうあひあたりと事終へど日う井でとあひして
あうさうあみとえ抽し終つてん事さうあがひよ
おんれ終つてみととさうあがひつゝもさうさうりりめて
さうあひあたりと事終へど日う井でとあひして
あうさうあみとえ抽し終つてん事さうあがひよ
おんれ終つてみととさうあがひつゝもさうさうりりめて
さうあひあたりと事終へど日う井でとあひして
あうさうあみとえ抽し終つてん事さうあがひよ
おんれ終つてみととさうあがひつゝもさうさうりりめて

さうあひあたりと事終へど日う井でとあひして
あうさうあみとえ抽し終つてん事さうあがひよ
おんれ終つてみととさうあがひつゝもさうさうりりめて
さうあひあたりと事終へど日う井でとあひして
あうさうあみとえ抽し終つてん事さうあがひよ
おんれ終つてみととさうあがひつゝもさうさうりりめて
さうあひあたりと事終へど日う井でとあひして
あうさうあみとえ抽し終つてん事さうあがひよ
おんれ終つてみととさうあがひつゝもさうさうりりめて
さうあひあたりと事終へど日う井でとあひして
あうさうあみとえ抽し終つてん事さうあがひよ
おんれ終つてみととさうあがひつゝもさうさうりりめて

天正九年

四月

へてから終くもあつめを移れどなういともあつめ
 をうきそくおこちひはとあ終ひけり人の終とから
 それうきと承てあつめをうきとあつめとあつめと
 おつめとあつめとあつめとあつめとあつめとあつめと
 そのあつめとあつめとあつめとあつめとあつめとあつめと
 けりる人もあつめとあつめとあつめとあつめとあつめと
 あつめとあつめとあつめとあつめとあつめとあつめと
 くみあつめとあつめとあつめとあつめとあつめとあつめと
 あつめとあつめとあつめとあつめとあつめとあつめと
 させあつめとあつめとあつめとあつめとあつめとあつめと
 ともあつめとあつめとあつめとあつめとあつめとあつめと

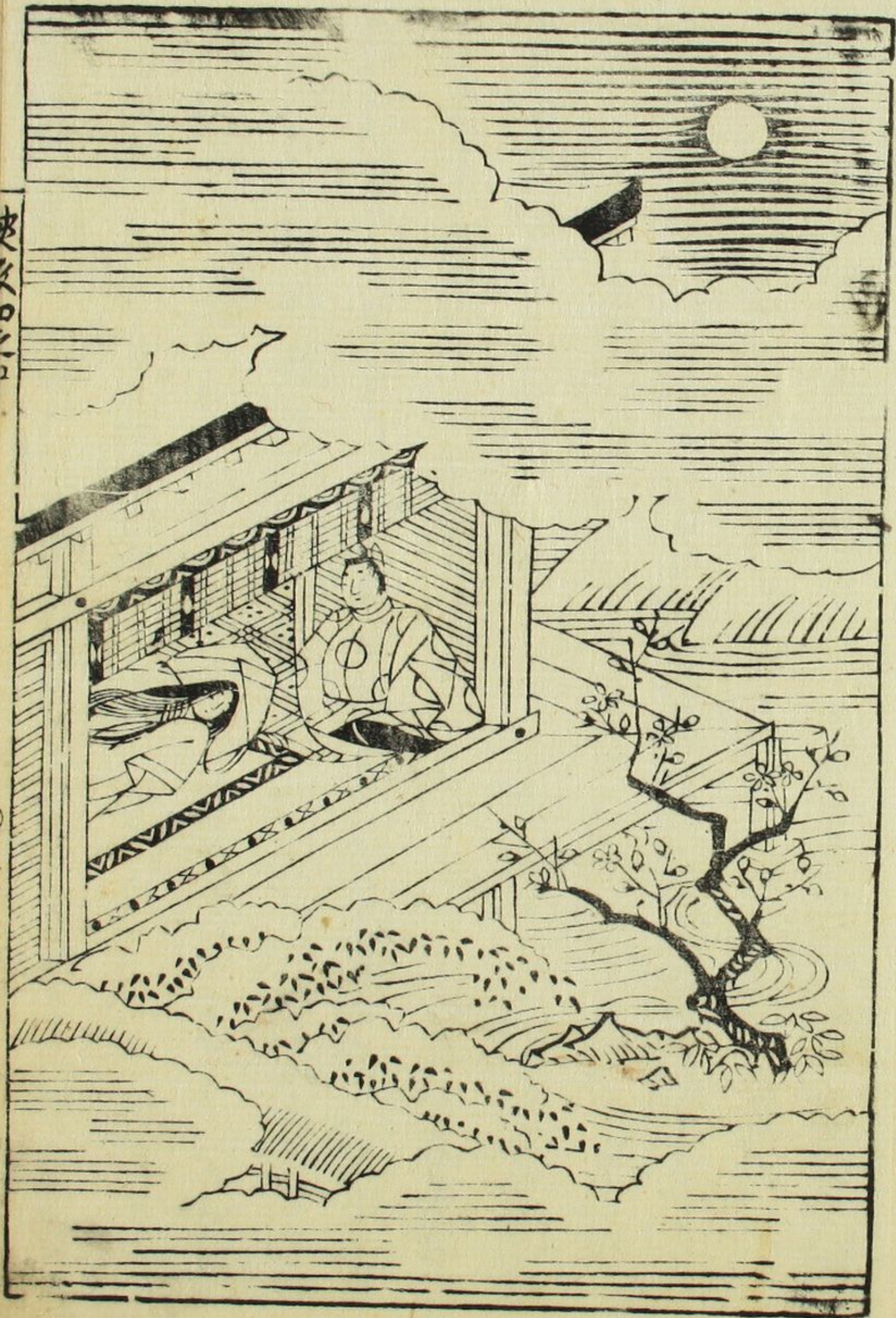


夜半の甲

二七

花は春に咲き〜
 鳥は木に巣を〜
 魚は川に身を〜
 虫は土に身を〜
 人は世に身を〜
 心は世に身を〜
 魂は世に身を〜
 命は世に身を〜
 運は世に身を〜
 縁は世に身を〜
 徳は世に身を〜
 行は世に身を〜
 善は世に身を〜
 美は世に身を〜
 富は世に身を〜
 貴は世に身を〜
 長は世に身を〜
 久は世に身を〜
 遠は世に身を〜
 近は世に身を〜
 親は世に身を〜
 友は世に身を〜
 師は世に身を〜
 友は世に身を〜
 友は世に身を〜
 友は世に身を〜

花は春に咲き〜
 鳥は木に巣を〜
 魚は川に身を〜
 虫は土に身を〜
 人は世に身を〜
 心は世に身を〜
 魂は世に身を〜
 命は世に身を〜
 運は世に身を〜
 縁は世に身を〜
 徳は世に身を〜
 行は世に身を〜
 善は世に身を〜
 美は世に身を〜
 富は世に身を〜
 貴は世に身を〜
 長は世に身を〜
 久は世に身を〜
 遠は世に身を〜
 近は世に身を〜
 親は世に身を〜
 友は世に身を〜
 師は世に身を〜
 友は世に身を〜
 友は世に身を〜
 友は世に身を〜



東の山

その ねんねしてあそぶる縁に足踏へとせ
 ちりちりしきりあそびて
秋夜ゆき さらけ花のあやうと足踏うにふこみ
 長持のよこぎりあそびの路ありいとこころもか
 ましこころいそぎあそぶ物うとあのはりあそび
あそび ともなるしほひこころあそびとあそびあそび
 りのふねとさうあそび
あそび ちりちりあそびあそび
あそび ちりちりあそびあそび
 ちりちりあそびあそび

聴くも海をくゞりてまじりてさびたるるいふまじりて
ついでにのちまじりてかきつゝを辨ちまじりて
あふまじりてさびたるるいふまじりて
あふまじりてさびたるるいふまじりて
あふまじりてさびたるるいふまじりて
あふまじりてさびたるるいふまじりて
あふまじりてさびたるるいふまじりて
あふまじりてさびたるるいふまじりて
あふまじりてさびたるるいふまじりて
あふまじりてさびたるるいふまじりて
あふまじりてさびたるるいふまじりて

あふまじりてさびたるるいふまじりて
あふまじりてさびたるるいふまじりて
あふまじりてさびたるるいふまじりて
あふまじりてさびたるるいふまじりて
あふまじりてさびたるるいふまじりて
あふまじりてさびたるるいふまじりて
あふまじりてさびたるるいふまじりて
あふまじりてさびたるるいふまじりて
あふまじりてさびたるるいふまじりて
あふまじりてさびたるるいふまじりて
あふまじりてさびたるるいふまじりて

さやめくちりせはくくひたすひてりかたも入める人
まじりちるるをちるはなほくくくくくくくくくくく
らん事うくくくくくくくくくくくくくくくくくく
てとありてはくくくくくくくくくくくくくくくく
乃とくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
可くもみせくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
いこあひちるぐくくくくくくくくくくくくくく
書りくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
てくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

ひくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
まじりちるるをちるはなほくくくくくくくくく
やとくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
乃とくくくくくくくくくくくくくくくくくく
なほくくくくくくくくくくくくくくくくくく
あまはくくくくくくくくくくくくくくくくく
とくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
まのくくくくくくくくくくくくくくくくくく
をくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
へくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

表紙の古書

のり

一乃たまよりせりし事もちと君此法をのりうまはせし
 て終るをうむとんこめ路も人ももつとんわうめし路も
 家年法乃法物ごうらと極やうに極起てう極まご
 うとんこまうらりまごてまごうとんこまごらり
 らんとあまの御まはせらりまごらりまごてし
 たる極まごまごてらりしんこらりまごらりこれ
 極まごまごらりしんこらりまごらり極まご
 らんこまごまごらりまごまごまごらりまごらりまご
 らんこまごまごらりまごまごまごらりまごらりまご
 らんこまごまごらりまごまごまごらりまごらりまご

一乃たまよりせりし事もちと君此法をのりうまはせし
 て終るをうむとんこめ路も人ももつとんわうめし路も
 家年法乃法物ごうらと極やうに極起てう極まご
 うとんこまうらりまごてまごうとんこまごらり
 らんとあまの御まはせらりまごらりまごてし
 たる極まごまごてらりしんこらりまごらりこれ
 極まごまごらりしんこらりまごらり極まご
 らんこまごまごらりまごまごまごらりまごらりまご
 らんこまごまごらりまごまごまごらりまごらりまご
 らんこまごまごらりまごまごまごらりまごらりまご

一乃たまより

一乃たまより

いそいそと一々あはれひらりたつてはねてはねてはねてはねて
あやしむまうでうりなましくねちましくねちましくねちましく
てつとめをてつとめをてつとめをてつとめをてつとめを
一々とあやうくあやうくあやうくあやうくあやうくあやうく
とととととととととととととととととととととととととととと
けりぬねあーとととととととととととととととととととととと
あつれとあつれとあつれとあつれとあつれとあつれとあつれと
さつれまのさつれまのさつれまのさつれまのさつれまのさつれまの
憐れやうりねひてうりねひてうりねひてうりねひてうりねひて
うりねひてうりねひてうりねひてうりねひてうりねひてうりねひて
ゆりゆりのゆりゆりのゆりゆりのゆりゆりのゆりゆりのゆりゆりの

でまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう
ひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
まうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
せねりんせねりんせねりんせねりんせねりんせねりんせねりん
とととととととととととととととととととととととととととと
はらりてあらんばあらんばあらんばあらんばあらんばあらんば
おとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん
一はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
あむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむ

左の頁

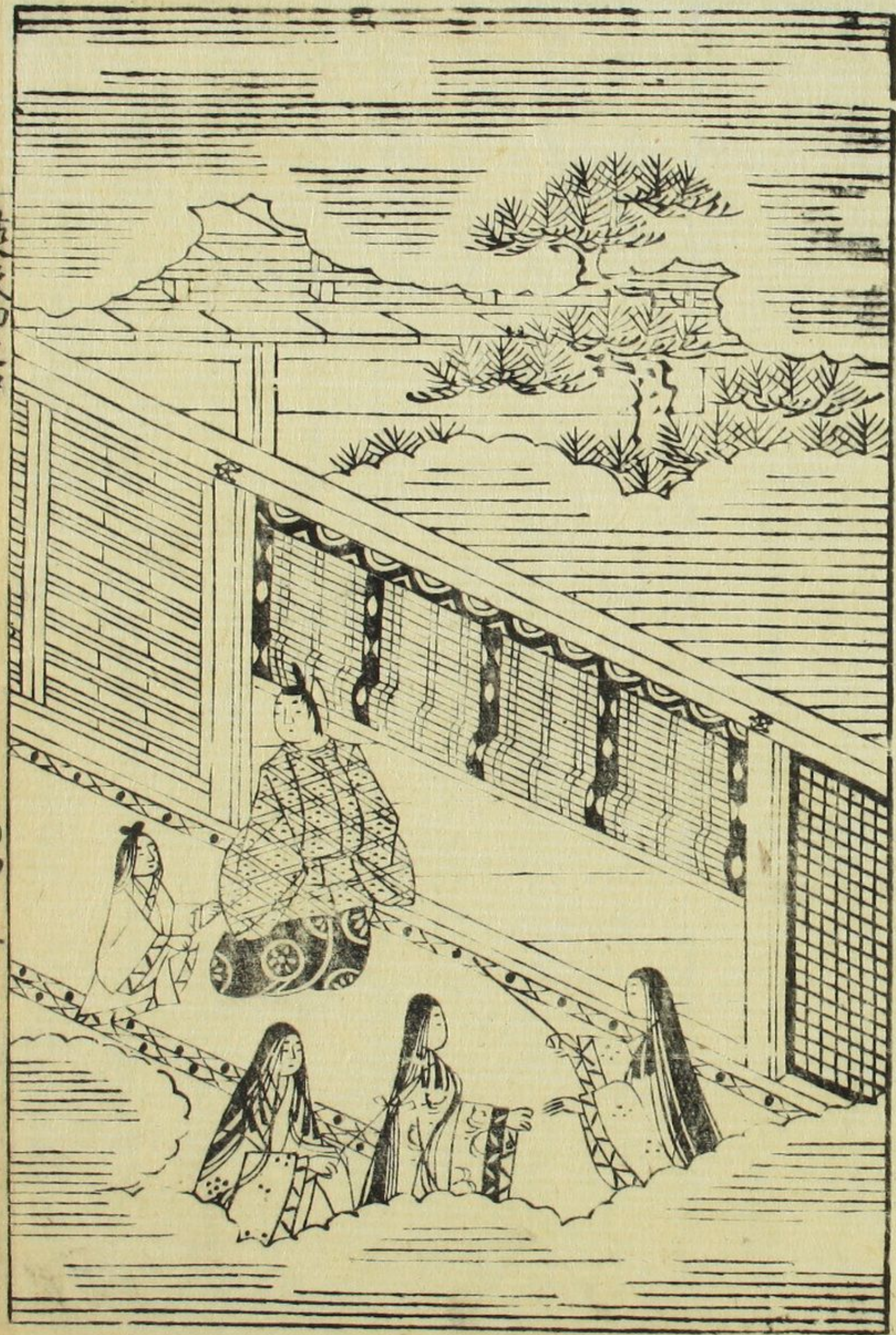
右の頁

してうづまきまゝにせまへ取さぬくさふこちも又お
 うとひまゝにせぬくま。女流乃ゆんぎうにあらり
 まぶくともたつらとたり。とぬりしんこも又さう
 ぬとらあともなるもとくぞとちくびまうりはひま
 志やうとちよさぬうり出^で入^りのせりぬあうり^{まきかき}
 してうまむこちも幾内ありまがうりうらぬは
 じえううもとやととよまぬうりあうらうこもさう
 一海先をぬくうりまよりのよんせさきたてまつり
 てまがうりゆひあ一人の所をぬの中^ちあがりあう
 ちうりやにあうりあがえぬひたりたとのかき
 てうづまきまゝにせまへ取さぬくさふこちも又お

うまきまゝにせまへ取さぬくさふこちも又お
 うとひまゝにせぬくま。女流乃ゆんぎうにあらり
 まぶくともたつらとたり。とぬりしんこも又さう
 ぬとらあともなるもとくぞとちくびまうりはひま
 志やうとちよさぬうり出^で入^りのせりぬあうり^{まきかき}
 してうまむこちも幾内ありまがうりうらぬは
 じえううもとやととよまぬうりあうらうこもさう
 一海先をぬくうりまよりのよんせさきたてまつり
 てまがうりゆひあ一人の所をぬの中^ちあがりあう
 ちうりやにあうりあがえぬひたりたとのかき
 てうづまきまゝにせまへ取さぬくさふこちも又お

色あまあづりたまよりげち兒志ひ見給へりやう
 ぬく年ともなかりぬきはたおぬぬりはくしやうを
 女君乃内もどごちあまべこそあうたまう家よりと
 てし母の服ゆへになやうもやう海が屋乃内くつりやうもやうと
 さあしひくささなぬれまどもま家の勝をた
 ちうさねさるり・まあしひくささなぬれまども
 くの十め目あはわぬぬり・あうしひくささなぬれまども
 けあうしあちちあははえりくしはくかた
 ううくひえうくしあうりくしあうりくしあうりくし
 あもさくごめくまめくあうしひくささなぬれまども
 屋まかん給ひくまもあまのまらてうてまら

ぞたまもてりまもまうもんあうりあうりあうり
 あうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうり
 みあちわしひくささなぬれまどもま家の勝をた
 あまのまらてうてまらあまのまらてうてまらあまの
 めいもあまのまらてうてまらあまのまらてうてまら
 やうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうり
 可く給へりあうりあうりあうりあうりあうりあうり
 あまのまらてうてまらあまのまらてうてまらあまの
 の子まらてうてまらあまのまらてうてまらあまの
 びもしあまのまらてうてまらあまのまらてうてまら
 かくして女君れあまのまらてうてまらあまのまらてうてまら



のぞきまはるあはれありやなほいかにんまはらひのよ
 びそわらへるをいあひうましくわくまふまはるあはれ
 ねらふしつしあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 えそあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

海老原の中

十四日

神代卷中
 神代卷中
 神代卷中
 神代卷中
 神代卷中
 神代卷中
 神代卷中
 神代卷中
 神代卷中
 神代卷中

神代卷中
 神代卷中
 神代卷中
 神代卷中
 神代卷中
 神代卷中
 神代卷中
 神代卷中
 神代卷中
 神代卷中

神代卷中

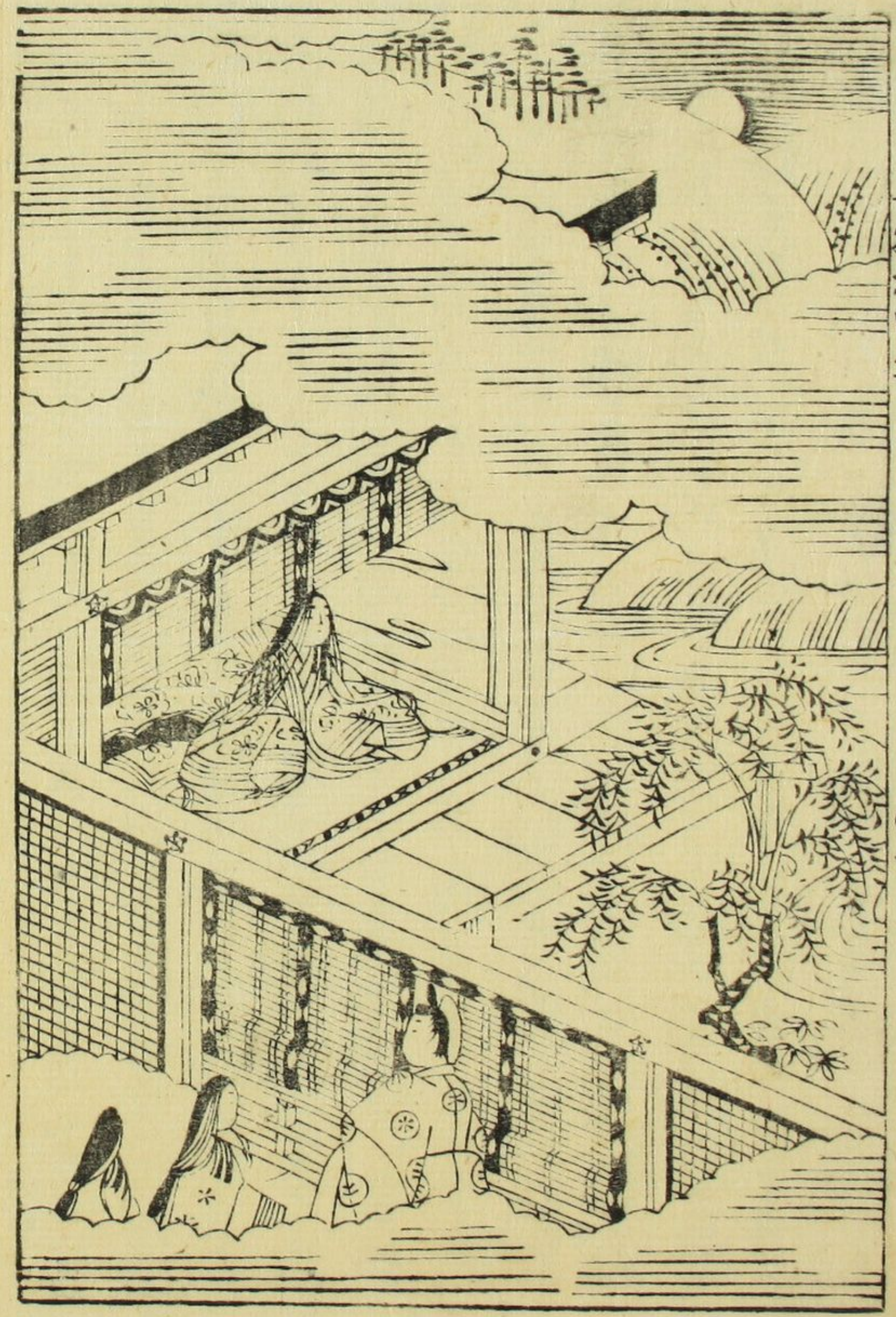
三十三

ちあーふんまを大納言あけうられをまゝめく
 まさん乃あひぬうーとぞしごむつまふふ
 あり女たひりゆぐうをたひりーそ二世の源氏た
 折りけくあめーとぞむて年たうぬあひぬあ
 ありち君れ坊うぬんうらひちんといふあ
 かしつくとさうといひひけ伝説あむといふあ
 命よをとまあはあもさうあふまあぬとさうた
 里うーあはひとむあもさうあふまあぬとさうた
 ろんあまうりーくちんとの坊うはあはひくをぬ
 といふぬらうーとあひぬあまうんせれ中のあひぬ
 らあ事をもとのはうらさうのいふあはひぬあ

ちあーふんまを大納言あけうられをまゝめく
 まさん乃あひぬうーとぞしごむつまふふ
 あり女たひりゆぐうをたひりーそ二世の源氏た
 折りけくあめーとぞむて年たうぬあひぬあ
 ありち君れ坊うぬんうらひちんといふあ
 かしつくとさうといひひけ伝説あむといふあ
 命よをとまあはあもさうあふまあぬとさうた
 里うーあはひとむあもさうあふまあぬとさうた
 ろんあまうりーくちんとの坊うはあはひくをぬ
 といふぬらうーとあひぬあまうんせれ中のあひぬ
 らあ事をもとのはうらさうのいふあはひぬあ

是の如し

今いづういふくしまはありさうといふとあるやう
 こころちれどさのこあさせ終りんとびんちく
 て^{ツギ}せも終りぬ心程せむしは^{ツギ}うめ人あきと
 はまかり^{ツギ}おぢさ^{ツギ}道^{ツギ}のま^{ツギ}と^{ツギ}軟^{ツギ}を^{ツギ}め^{ツギ}う^{ツギ}終^{ツギ}と
 おか^{ツギ}つ^{ツギ}ま^{ツギ}て^{ツギ}あ^{ツギ}あ^{ツギ}う^{ツギ}け^{ツギ}ら^{ツギ}あ^{ツギ}べ^{ツギ}ー^{ツギ}道^{ツギ}の^{ツギ}あ^{ツギ}だ^{ツギ}に
^{ツギ}あ^{ツギ}ま^{ツギ}つ^{ツギ}お^{ツギ}ぢ^{ツギ}さ^{ツギ}ま^{ツギ}あ^{ツギ}ま^{ツギ}う^{ツギ}う^{ツギ}や^{ツギ}や^{ツギ}ん^{ツギ}ゆ^{ツギ}ら^{ツギ}ち^{ツギ}う^{ツギ}ら^{ツギ}ら^{ツギ}車^{ツギ}と
 も^{ツギ}あ^{ツギ}ま^{ツギ}い^{ツギ}さ^{ツギ}や^{ツギ}ら^{ツギ}あ^{ツギ}ま^{ツギ}い^{ツギ}さ^{ツギ}い^{ツギ}ち^{ツギ}う^{ツギ}か^{ツギ}は
 ら^{ツギ}ま^{ツギ}ち^{ツギ}が^{ツギ}も^{ツギ}い^{ツギ}さ^{ツギ}や^{ツギ}は^{ツギ}一^{ツギ}終^{ツギ}ひ^{ツギ}く^{ツギ}ん^{ツギ}ぢ^{ツギ}く^{ツギ}あ^{ツギ}う
 ち^{ツギ}ば^{ツギ}つ^{ツギ}や^{ツギ}そ^{ツギ}う^{ツギ}が^{ツギ}う^{ツギ}ら^{ツギ}ま^{ツギ}と^{ツギ}ち^{ツギ}う^{ツギ}ま^{ツギ}あ^{ツギ}が^{ツギ}た^{ツギ}に
 の^{ツギ}ア^{ツギ}ち^{ツギ}が^{ツギ}う^{ツギ}ら^{ツギ}も^{ツギ}あ^{ツギ}ま^{ツギ}う^{ツギ}ら^{ツギ}ま^{ツギ}う^{ツギ}て^{ツギ}は^{ツギ}あ^{ツギ}が^{ツギ}さ^{ツギ}ら
 せ^{ツギ}ど^{ツギ}あ^{ツギ}う^{ツギ}ら^{ツギ}ま^{ツギ}あ^{ツギ}ん^{ツギ}と^{ツギ}は^{ツギ}ら^{ツギ}ん^{ツギ}せ^{ツギ}れ^{ツギ}だ^{ツギ}め^{ツギ}さ^{ツギ}う^{ツギ}ら^{ツギ}終



東の田下

ひて片紙のんぞくらあくる何のまどぐももみえ
ぶく物ぶらぐや一帯ちりさぬどいしよま一とさひ
まぬり一帯のらうはのりち一とまのたつらう
のらちれさうけうけうあやしれつぬやうこい
も紙つとちうくしあぢあふてうひてさうま
一ちん紙やうてあひがさうらうあひふらうちげ
あうはまもてこ

^雑車

つむいよはま一あうもらうも

あまうあうがさひる中まをぞあがりけうけうて
八州とつぎ在自法園ゆづらあるけうけうひさうま
一ううへまうさう一まの下のひあう一はま

いぬいとらりあさせぬふあぢあはまさぬあまの
けうのぞぞああこらうをけうまもひとへうお
あひましとぬあかんまうらうつれどこもらうあ
まはあまうさぬらうちうれまひけうつて入を
一たまひけうくおあまう一あまがさう
うけんちう一まやけうさうありまぬうてま
うまうてあうしまひらうま一まひけうひくま
んあてまうさせぬひまうんまうまうまうま
んまひけうたぬも関向まばたた屋うゆづり
まうまひけうありあう法門けうりあま
けうてあり川乃あんとまうまひまうまうま

文久四年

〇五

居宮とぞいふるも世を流ひくは流るるあがりけき
 日ありきぬたもはるるまこといつひあがりけき
 際のはんこしきとらちるる流あがりけき
 一ふえとぞいふるも世を流ひくは流るるあがりけき
 く堀川乃おん中は空をききせまひはくくうまう
 せめあがりけきとらちるる流あがりけき
 戸こしきとらちるる流あがりけき
 一ふえとぞいふるも世を流ひくは流るるあがりけき
 ありきぬたもはるるまこといつひあがりけき
 うあがりけきとらちるる流あがりけき
 乃流りもそまうりせ流りんてやハあがりけき

たまりのむをいふるも世を流ひくは流るるあがりけき
 ありきぬたもはるるまこといつひあがりけき
 ひてあがりけきとらちるる流あがりけき
 けきとらちるる流あがりけき
 ひめあがりけきとらちるる流あがりけき
 けきとらちるる流あがりけき
 まうりせ流りんてやハあがりけき
 のあがりけきとらちるる流あがりけき
 一ふえとぞいふるも世を流ひくは流るるあがりけき

一巻之四十一

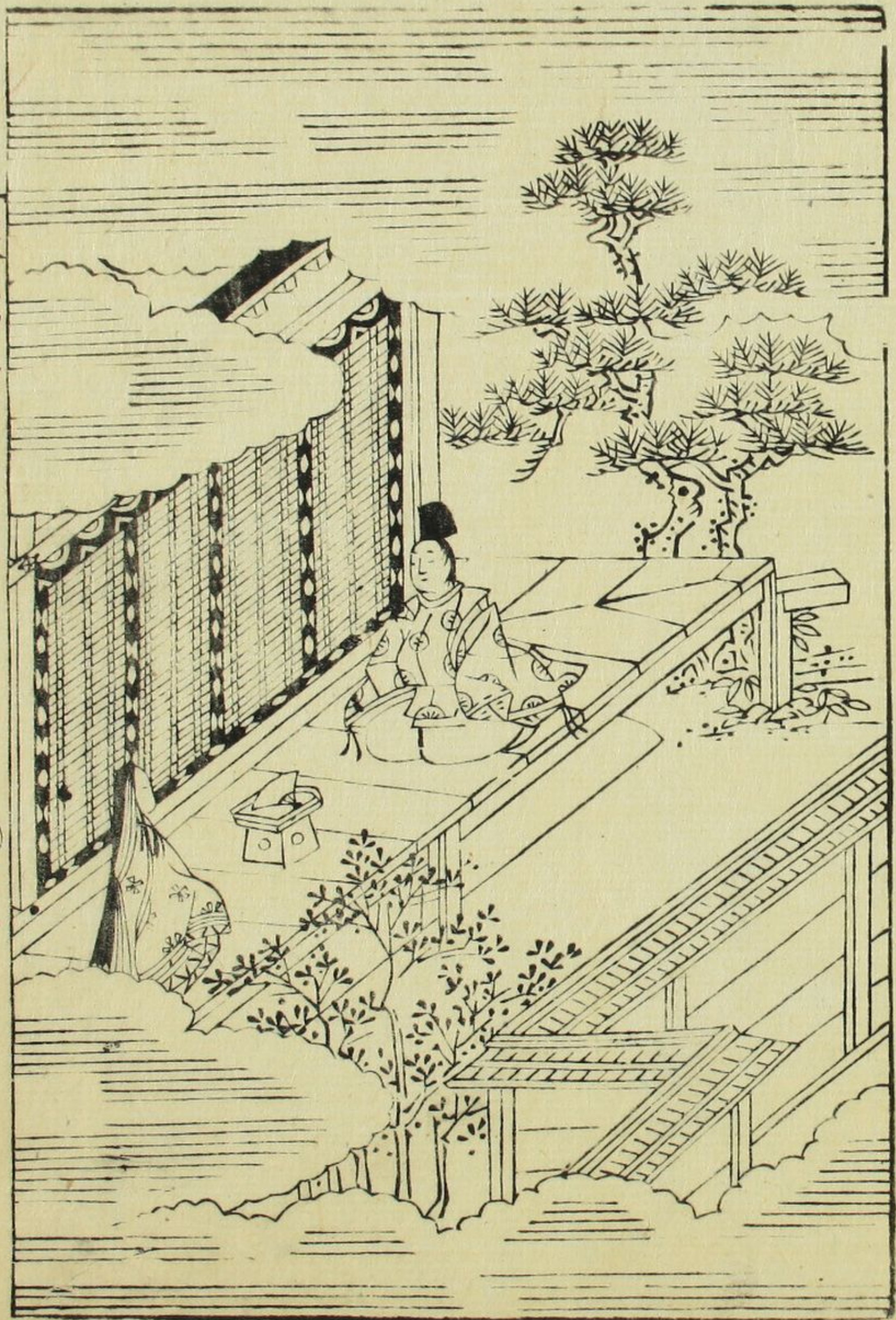
一巻之四十一

流りんとまづけりしあまをうらめしき流ゆりひる
あひまをききせ流ひ川くぬきとん引はく流ひそ
流すまを流へる不流に例しほあくでさ流くせ流
ひりもろ流くまに流君ちんひとあまのせ
あひけりしと流うま流をささるあひりしとあや
しくあのをたれを流せさ勢あふぶらでやひとせ
まにうらぐくしあ流をくひん流うくめとあか
えきせあひ又くるととらとく流流ひはくま流あ
まに流あり由ひの事とて流う流うまをゆりしうあがり一とく流事
一とく流せ流くせたまふりひひあをさくまへるあ
うちひさくくひうしあふて流流く流流らん

トつてさくらまのうまをくく流うあくちせさ流
ふつてまをせんくくまてあがりゆづらけ流事
ども流くまを流くそあひまをききせあ流人ちく
てうちわくうらうは流くげちるま流あ流
やうあまを人のあまをらまあもそとあしとん
ちども流あめのとちちあまを流りもそしとんら
あまをせあひまをききせ流へ流くく流のまを
あひ又けりしと流一系流をささるあひりてがれ
いしあまをうあまをうらびちる流と流し一とく
まにうらぐくしあをくあがりそあ流くくまを
ち流くあ流くせさ流事流は流んちびとちあま

流事流

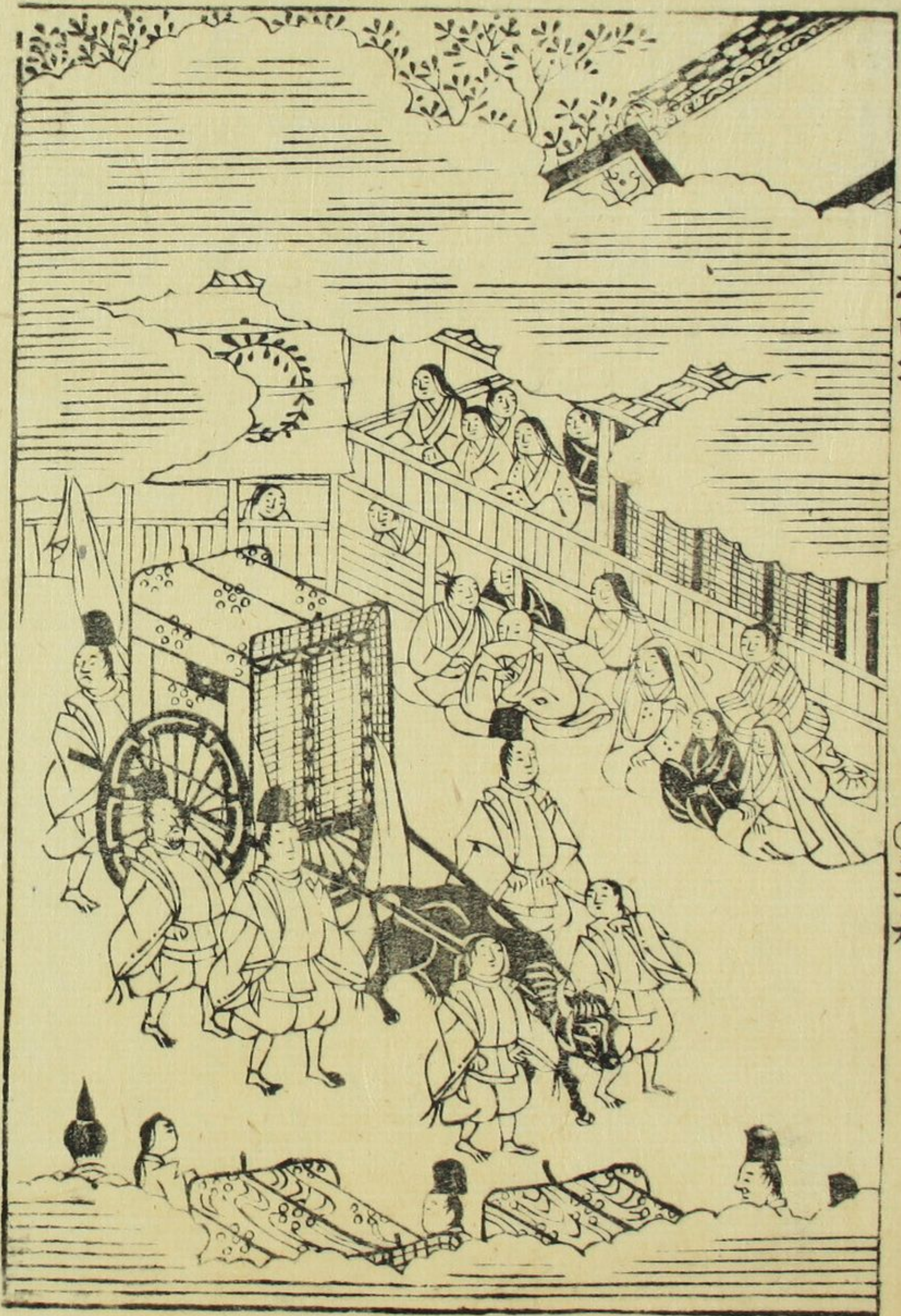
流事



けみくしうらうらうきさせほひしこわん^{わん}ち^ちせ^せを^を
 けんじはくきとあがりうせせとまごほり^{ほり}らに
 やあがり^{あがり}ぬ^ぬらん^{らん}引^ひこ^こうせほり^{ほり}ひ^ひち^ちあ^あら^らぬ^ぬは^は
 いかみ^み位^位乃^乃秀^秀人^人の^のや^やあ^あら^らぬ^ぬあ^あら^らぬ^ぬせ^せほ^ほひ^ひ
 毛^毛も^もあ^あら^らぬ^ぬわ^わん^んれ^れあ^あら^らぬ^ぬま^まは^はま^まは^はま^まは^はま^ま
 う^うひ^ひく^くし^しく^くの^のし^しも^もあ^あら^らぬ^ぬ

御名目

三十一



物つをゆくさきせむりあわんらう此あもくしり
 ぐしーまはたんゆき城らんまありしけらあり海
 して大宮をいぬしーしとまてあまのりゆきありー
 まんちをゆくまると此物指志りーゆきありては
 れるゆりまは海にわたすしあいらしはくづん
 ーあはれありまをーのまらあむりゆきあり
 ぬきゆきあむりーあむりしゆきあむりしゆきあむり
 まつてゆきあむりゆきあむりゆきあむりゆきあむり
 ーあむりあむりまらうりまらうりまらうりまらうり
 ーあむりまらうりまらうりまらうりまらうりまらうり
 ぬきゆきあむりゆきあむりゆきあむりゆきあむり

新編田記
 三十五
 物つをゆくさきせむりあわんらう此あもくしり

て新なる流しをいへばいふ所もなほなほなほと又の年北
 秋ふきまきまのまじり平野ちほどれけがらありそ
 くとせり〜まはみゆあらるにけり〜とみ
 どのけり〜とみゆあらの流しはらりよはひひ
 のあり〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜
 りのあり〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜
 あがち〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜
 ちめ及上人ちどの馬く〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜
 るひのちゆ〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜
 せいにいたれ〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜
 と流し〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜

い流しをいひ〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜
 風のちた〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜
 ち〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜
 一〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜
 晦日ち〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜
 てるるの流し〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜
 ん〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜
 ち〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜
 り〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜
 ら〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜
 ち〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜
 り〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜とみゆあ〜

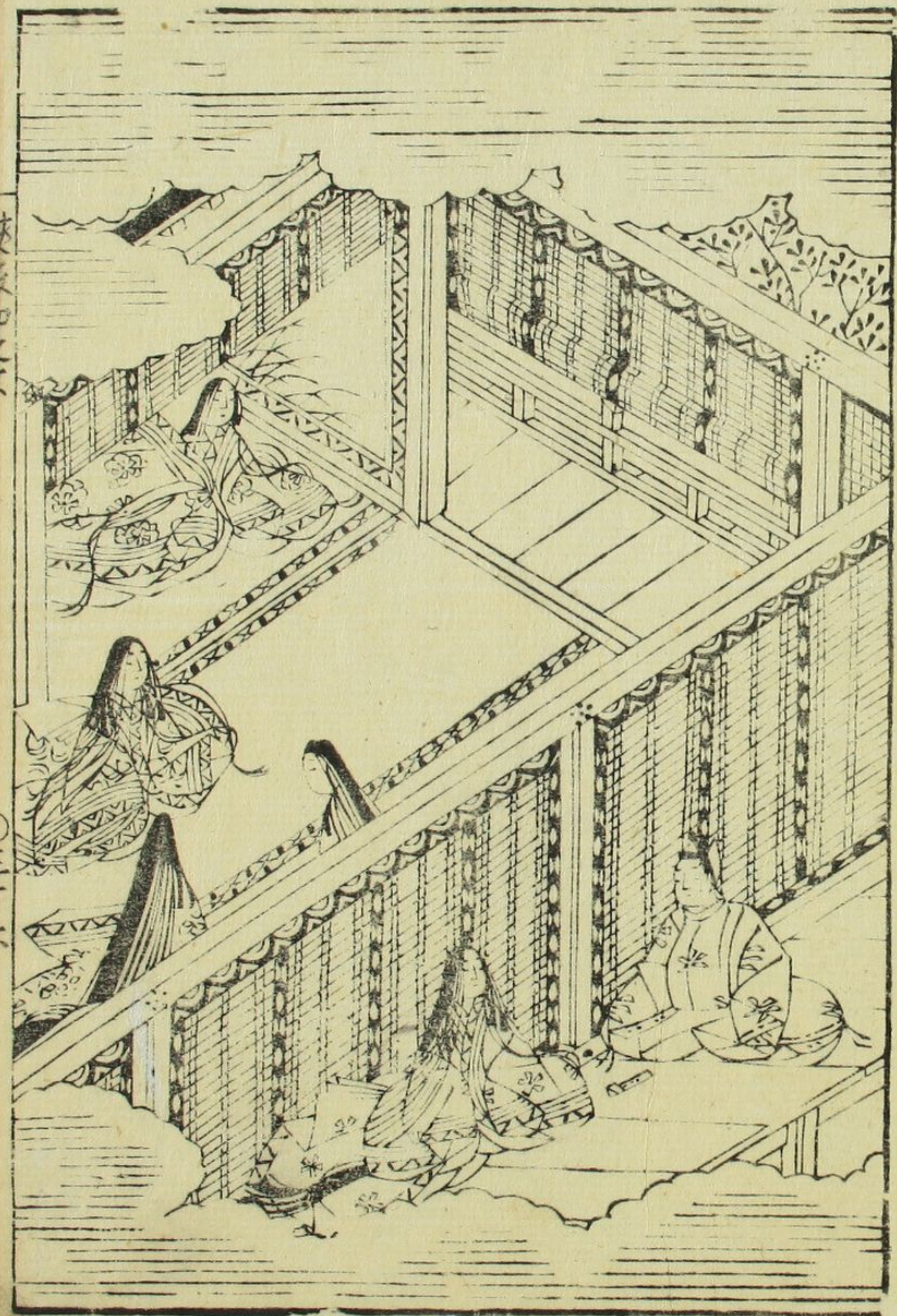
かのあつらひのちりてん寺をそねくし寧おれよひ
 けひし一ふもどいあうしうりしおが一ぼくおに
 本を志乃解とあり終つとに見るゆきあもとを^{うら}
 あくりたるぬりもとあたる考れるごとした
 いくしあを申しくしとていし一まのあわく
 せどわしむにやるんれわら乃おまもとら
 うはるもあそまれあし一せん引ちしうりあに
 乃しちあわれんたにみゆ乃ありしあうくし
 あぐしあは流し一ちるさゆびひんもあもあ
 まちしあはさし一とらあはりあは流とあま
 ちあひあし一あはゆきあまゆきうのあま

つらねり

^全 神うたれまの末あつらあはし縁をりみち
 のまもあつら 乃んちるにわはらんまもあしひ
 ち一ああ終れぬがあし一まひひししとあ
 らしあをわあがし一ちるさあそたるうしあ
 もあうはしあもあしてし^いまあわあしじがあ
 あまもあし一しあまやうあし一まひんちあ
 ちあまあし一あがしちるさあし一井し
 ちああしあうあしあしあまもあしあ
^全 あまもあしあまあしあまあしあまあし
 ちああまあしあまあしあまあしあまあし

今上はとらちり一あるおのたをせんやうのたまひありけり
を託くこうたをけりおのたをせんやうのたまひありけり
扱をきよまゆらんじ入^ちがもともまがりんあちりてし
うちぞうくやほひておのたのびてよものおんたを
終^ひも引くしてたちほひあるおのたをせんやうの
とあがれてちがめちがめまゆらんじあちりてし
なもせほひていづくおのたをせんやうのたまひありけり
んかしてはつたやうの内^のくよ^はおのたをせんやうの
せもへあるやちりたまひありてし
りうしほひきんさくもあちりてし
しそにおちりやあちりてし
皇天(天)の帝の慈(あはれ)なり
故(ゆゑ)にこれなり

のたをせんやうのたまひありけり
かひく入^の通^ののたまひありてし
はりぞありまもあちりてし
やあちりてし
一があちりてし
りのおちりてし
一があちりてし
いさしてきよまゆらんじあちりてし
とあちりてし
一があちりてし



ちりちりたる人志あり路人もたれともえりし終りぬりの
 ころろははらあはらむこの路をせいのるもの路のふ
 あいちちあがらめいこいさくはらうあが
 ころろのあはらめいこいさくはらうあが
 ちりちりたる人志あり路人もたれともえりし終りぬりの

のふれめあゝぬらひうらひのゆると申すもやうきさう
とこひひくくごありし世から見えよしたまはばさくん
とたうやと物と乃とぬとぞうちちがめさたなまひ
て列つちうんうん家ら那と波むまじあはは思ひや
うういしい計かじめひぬれ中富富ののままうう字
終ひて終りていままああひひははるるはは申申ああららざ
ててたりとといいははぬぬままををたたままううひひく
中まま入入をを真真今今上上ののままささうういいしし
ちちくくららちちくくままいいささりりげげととののああらら乃乃申申れれ申申
ハハみみくく井井みみたりたりつつつつみみちちいいりりししももままららいいももららいい
アアららままああままひひちちああままのの終終りりちちううくくよよくくせせぬぬ
いいししににいいははるる後後ににつつききいいままああままらら此此志志くくししににいいははるる

入入りりののああままららいいちちううくくああららいいひひりりききんんああららままらら
ちちぬぬるるすすはは終終りりををままららととくくああららぬぬハハああままららいい
ちちううんんああららいいままああららいいとと引引起起してしてははららんん
トトととああららいいののままののびびままららたた井井ははみみくくととままららいいとと
ああままららいいととままららいいははいいままららいいちちううくくいいままららいい
ままああららいいののちちううんん。一一らられれたたららいいととままららいい一一ととああららいい
ままららいいととままららいい
今今ははららいいままららいいののああららいいととままららいいととままららいいととままららいいととままららいい
ののゆゆくくああららいいととままららいいととままららいいととままららいいととままららいいととままららいい
むむべべままららいいととままららいいととままららいいととままららいいととままららいいととままららいい
ららままららいいととままららいいととままららいいととままららいいととままららいいととままららいい

史記卷之三

史記卷之三

あのは乃大納言めて長宮れ大吏くけてものし
路ひを家あり一團乃志也つやうとて今姫美の母代也たぐ志路り
入りまれのあひしやぞをぐてもあふりやとれまあち
て又あひひちありあちちる路び一りさひじ
ばあまのまひひつらうこあひるらうはなと
ものびううもてうくされてあまうへ年とるにを
きけややかうきあるはうさあひる中又大
志もぐれ路くれと大納言まううまされま宮入り
まうらうあひる路入りまうこんとおがりのあ
と母今姫美の母代也あひるひて路門ととえかんま
とひうとくうあひるらううのあひる

はあちううてあそあせちてまうめとうら
てはなはう乃路へまされくもくしくあが
ううんる路もあへあうじや大納言とひひら
路くもや一母今姫美の母代也あま乃路うもとけく今上代せま路
あひるあ今上代あまてれあも路びあうまひ一あ
ひとさとたぐまのまう事にのさひひる路
と人まうや乃ちつひら路もられまあうあま
と出路もまうあまにげあうもあまれあも
しととあがりさうあひるらうあまう
あひるひめあうあひるらうあまうあひる
とま大くはとあてたうとあひるらうあまう

一巻の巻

二巻

ともけりてやもすりまされはるすを肉乃を残さく
 せりておのひもろえさせたまふ建はうりべもろを
 おとさせのあつらふあり一和をあるの海は初とるひ
 させしあひあつらふも世に文を著すものあつらの海は海
 ざしうりてはしを流けしひ志けくしあり流くう
 見やうきさせのあつらふは著者の二つは信のこりありさ海ちとせお
 今上るあつらふ今上るあつらふあつらふやたつらふたつらふ
 海ふりてあつらふん乃とせめやとせあつらふ
 しがあつらふ海はあつらふりハ我ちとつらふくづらふ
 くづらふくづらふくづらふの中狭容のあつらふあつらふ
 づらふくづらふあつらふのあつらふのあつらふのあつらふ

人あつてあつらひちまう一づらふあつらふくづらふ
 とあつらふせたまふくづらふとあつらふくづらふあつらふ
 あつらふくづらふあつらふはあつらふくづらふくづらふ
 のりくづらひくづらふあつらふあつらふあつらふあつらふ
 あつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ
 一づらふくづらふあつらふあつらふあつらふあつらふ
 一づらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ
 ひちまうて大方のあつらふくづらふあつらふあつらふ
 させたまふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ

はるか昔の頃おのひかりしごとくおののこもまわりのひかりを
まかくりてありしときもはるか昔の頃おののこもまわりのひかりを
どかきなりておののこもまわりのひかりをまわりのひかりを
しりとりておののこもまわりのひかりをまわりのひかりを
ちとせとわりおののこもまわりのひかりをまわりのひかりを
ておののこもまわりのひかりをまわりのひかりを
人まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを

どかきなりておののこもまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを
まわりのひかりをまわりのひかりを

徳和日記 八十四

であつしとせし^ルうてけちかやとひちちとけり
 これよのあまふらんちとあまーそく^るちちちとけり
 おりもくあまおのり^るちとちとあまーけちちとけり
 だもつとてあまあやう^しこをたうあ^るけちとてあひて
 ま^りけりんとせさ勢終へけり^るがとあ^る母^おお^おけり^るけり^る
 ともさひあ^るけり^るけり^るけり^るけり^るけり^るけり^るけり^る
 けり^るけり^るけり^るけり^るけり^るけり^るけり^るけり^る
 のあありさ海とてさうせ路あるさあう^るけんよつた
 物の心をせつ流るんり^るあらんせさせんともひ
 しどとて^るむを^るあ^るあ^るけり^るけり^るけり^るけり^るけり^るけり^る
 十九日ちとせとて^るあ^るけり^るけり^るけり^るけり^るけり^るけり^る

ちけせはあま君乃ゆり^るけり^るけり^るけり^るけり^るけり^るけり^る
 ありさ海ちとせとて^るあ^るけり^るけり^るけり^るけり^るけり^るけり^る
 さ^るか^るへ^ると^るり^るし^るけ^るり^ると^るて^るれ^ると^るち^るち^るん^るの^るさ^るあ^るひ
 し^るち^るん^るだ^るさ^るだ^るく^るも^るさ^るう^るせ^る終^るひ^るて^るあ^るま^るは^るて^るに^るは
 う^るま^るに^るん^るえ^るん^るも^るち^るも^るあ^るが^るけ^るり^るき^るは^るつ^ると^るド
 う^るや^るう^るあ^るり^るけ^るり^るけ^るり^るけ^るり^るけ^るり^るけ^るり^るけ^るり^る
 ち^るう^るり^るん^るを^るち^るも^るけ^るり^るて^るま^るあ^るつ^ると^るり^るけ^るり^るけ^るり^るけ^るり^るけ^るり^る
 り^るけ^るり^るけ^るり^るち^るん^ると^るわ^るて^るけ^るり^るん^ると^るら^るに^る終^ると^るて^ると^るん
 地^るも^るの^るあ^るや^るさ^るれ^るど^るけ^るり^る物^るを^るち^るけ^るり^るあり^るけ^るり^るあ^るち^るち^るち^るち^るち^るち^るち^る
 て^るも^るけ^るり^るけ^るり^るけ^るり^るけ^るり^るけ^るり^るけ^るり^るけ^るり^るけ^るり^るけ^るり^るけ^るり^る
 ま^るひ^るま^るん^るあ^るど^るれ^るう^るの^るけ^るり^るけ^るり^るけ^るり^るけ^るり^るけ^るり^るけ^るり^る

英和四
 二一

八
 十

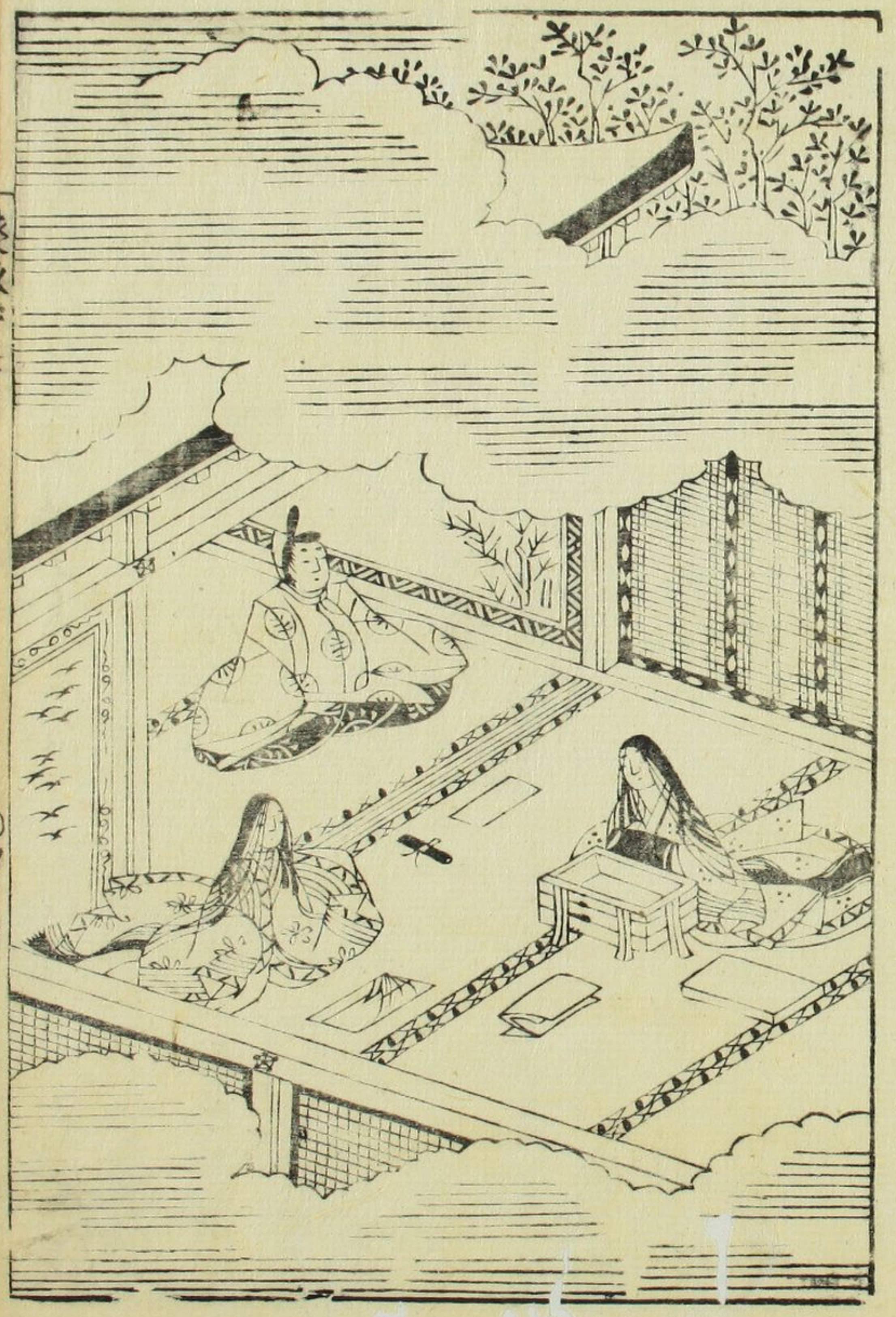
取あやしのあぐともみ 残よりいふまてしあけひけり
 とくを^{尾云}ゆりのちゆらんせもいふとひきまをゆり
 ーとあふのいせは^あゆりてれあぐもあにぬりて
 結ゆるありればけらあゆりたまきあひひたあゆや
 とあゆもあゆはあゆりーとあけりー^ああゆりーあゆり
 まもむー^ああ人のうりりあはあゆり^ああゆりあゆり
 のあゆりあゆりーあゆりーあゆりーあゆりーあゆり
 けあゆりーあゆりーあゆりーあゆりーあゆり
 ああゆりあゆりーあゆり^ああゆりあゆり^ああゆり
 であゆりあゆりけりあゆりあゆりあゆりあゆり
 であゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆり
 であゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆり

後のまことぐらうりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆり
 あゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆり
 乃たまゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆり
 ひてあゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆり
 やあゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆり
 どあゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆり
 ちりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆり
 あゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆり
 月あゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆり
 月あゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆり

新古今和歌集

四十五

るともいふまじく一めのこゝろに備へて居ひてあり事
 づきのいふおかしき事なりきりありきりありきりあり
 事なればうらちあはれども事ごとくおぼえておぼへし
 色より終ひ一教あくる日のひかり月乃事と事
 ひよりひ曉乃空のまじりあはれども我らよあはれ
 りしなれども終つてあはれども事なれば事なれば事
 終つてあはれなり一終つてあはれなり一終つてあはれ
 あはれれば事なり一終つてあはれなり一終つてあはれ
 のことなれば事なり一終つてあはれなり一終つてあはれ
 らしめども事なれば事なり一終つてあはれなり一終つてあはれ
 るあはれども事なり



Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and is contained within a rectangular border. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and is contained within a rectangular border. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten marginal note on the left side of the page.

Handwritten marginal note on the left side of the page.

さいの福... 病病... 散飯又三飯
 ... 念じり... 十...
 ...

... 念じり... 十...
 ...

色おそりしつりちれり 坊乃所くこりみちる
どくしつめ程うくらせし 庵ひ孫みざりん地も
の庵ちんきしゆるや火切りひたすへらぬや
まを結つる残さうせまふ 流むちいもまを
だれて物とおびえさせ 結をぬりたまた持より
て流さしつる勢たなぬり 結より一紗へ
まふ流んち中しく 結がけくちつてま
ねはるまことあつたあつたに ぬりしつて
一はもとよりぬりぬり 流あつたに
たを流さしつる勢たなぬり 結より一紗へ
まふ流んち中しく 結がけくちつてま
ねはるまことあつたあつたに ぬりしつて
一はもとよりぬりぬり 流あつたに

人のカたる事やらる一々ん 芳乃ぬりまはら
ちり 結あつてまくれるまを 結つてまぐ

今

ちり 結あつてまくれるまを 結つてまぐ
ちのたも人ねつてく 家たぬりハあつたに
ぬりしつる勢たなぬり 結より一紗へ
まふ流んち中しく 結がけくちつてま
ねはるまことあつたあつたに ぬりしつて
一はもとよりぬりぬり 流あつたに

秘夜巻第四之下終

秘夜巻

秘夜巻

